

第40回 日本サルコイドーシス/ 肉芽腫性疾患学会総会

会 長 寺崎 文生 (大阪医科大学 医学教育センター 専門教授)
副 会 長 星賀 正明 (大阪医科大学 内科学III教室・循環器内科 専門教授)
事務局長 藤田 修一 (大阪医科大学 内科学III教室・循環器内科 講師)

第40回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会を開催させていただきました。当初、2020年(令和2年)10月30日(金曜日)、31日(土曜日)の2日間、大阪(千里ライフサイエンスセンター)での現地会場開催を予定しておりました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の状況となり、WEB開催【開催期間：2020年10月30日(金曜日)～11月20日(金曜日)】に変更致しました。

本学会の特徴は、全身性疾患であるサルコイドーシスに関わる、基礎医学系から臨床医学系まで多くの領域の関係者が一同に会して活発な議論が行われ、情報交換と親睦交流が行われることです。今回のテーマは「サルコイドーシスのフロンティア」と致しました。日進月歩の医療界にあって、厚生労働省の難病に指定されているサルコイドーシスの最先端に行く研究や診療を念頭に置いて、下記4つのシンポジウムを実施致しました。1)「呼吸器サルコイドーシスのフロンティア」、2)「心臓サルコイドーシスのフロンティア」、3)「各臓器における臓器限局性サルコイドーシスの現状」、4)「サルコイドーシス病理のフロンティア」。

また、今回のコロナ禍におきまして、緊急特別企画として「肺サルコイドーシス診療へのCOVID-19の影響」を設けました。さらに、特別講演1題、教育講演4題、共催企画セミナー3題により、教育関連プログラムの充実を図りました。一方で、一例一例の病態の多様性を大切にする症例報告や一般演題も広く募集し、次世代を担う皆様への積極的な参加を促すために、YIA企画も実施致しました。昨年、日本循環器学会から「JCS 2016 Guideline on Diagnosis

and Treatment of Cardiac Sarcoidosis」が国際的に発信できたことを機会に、心臓サルコイドーシスを含めて、サルコイドーシスの診断基準や診療の手引きと、その国際化にも焦点をあててみました。

オンライン開催にあたって、共催企画セミナーはライブ配信、その他のプログラムの多くはZoomによる事前収録映像やアップロードスライドのオンデマンド配信の形になりました。オンライン開催により、参加者の皆様には、自宅や職場から自由な時間に余裕をもって、また複数回視聴していただくことが可能となり、より理解が深まる学会になったと思います。

初めてのオンライン開催で、座長・演者の皆様にはお手数とご迷惑をおかけすることもありましたが、記憶に残る有意義で充実した学会であったとのお言葉もいただきました。

この度、本学会開催にあたり、助成とご支援を賜りました大阪医科大学医師会の皆様にご心より篤く御礼申し上げます。今後とも、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

